

Add Wall Collective Report



Add Wall Co.Ltd®



みんなの手から生まれた大きな壁画

近畿大学 × Add Wall × 日本ペイント × 小児患者さん × 三原台の子どもたち

絵でつながる
“Connecting Through Art”
アートが病院とまちをつなぎました。

開催日：2025年9月28日

場 所：近畿大学おおさかメディカルキャンパス 2号館（診療棟）6階

Add Wall Collective Report

絵でつながる

“Connecting Through Art”

「生きることは、重なりあうこと。」



みんなの手から生まれた大きな壁画

近畿大学 × Add Wall × 日本ペイント × 小児患者さん × 三原台の子どもたち

大切なのは、つながりと循環。
生きるとは、互いに影響し合いながら、重なりあっていくこと。
自分を感じ、そして、その他の存在が
自分を生かしてくれていることを感じること。

絵という行為にも、その“重なり”が宿っています。
存在を感じ、他者に触れ、感覚を受けとめてみる
その瞬間、見えないエネルギーが流れていく。

— 小宮さえこ



Add Wall Collective Report

絵でつながる

“Connecting Through Art ”

「40人の手が描いた、ひとつの“呼吸”」

変化することは、
なくなることではない。
重なりあうこと。
つながるということ。

この土地（旧近大病院移転前の敷地）
は、かつて市民が集うプールだった。

その前にもまた別の風景があり、時間の
層の中で人々が交わってきた。

その“地層”の上に、子どもたちの絵が
新たな時間を刻む。

■ 「存在する」ということの奇跡を感じる構成。



1日目

BASEづくり
(地の色、余白のリズムづくり)



2日目

小児患者と三原台の子どもたちが描く。時間をずらして入れ替わりながら、
絵がレイヤーとなり変化していく。



3日目

小宮さえこが全体をひとつに紡ぐ



各レイヤーが「存在の記録」として地層のように積み重なる

絵でつながる

“Connecting Through Art ”

「この絵が、誰かの勇気になりますように。」



近畿大学デザイン・クリエイティブ研究所の岡本清文氏は、
本ワークショップを「医療空間における環境デザインの可能性を広げる
実験的プロトタイプ」として位置づけ、
小児から高齢者までを対象にした未来の展開に意義を見出している。
(プレスリリースコメントを抜粋・要約)

この日、病院の光庭には、さまざまな立場の人々が集いました。
近畿大学の学生が小児患者や地域の子どもたちと一緒に筆を動かし、
保護者の方々も自然とその輪に入り、色を重ね、声をかけ合いながら絵をつないでいきました。
子どもたちが残した線と色の上に、新しい手が重なり、
そこに生まれた形は、まるで“いのちの呼吸”のようにゆるやかに広がっていきました。

この土地(旧近畿大学病院移転前の敷地)は、かつて市民が集うプールでした。
その前にもまた別の風景があり、時間の層の中で人々が交わってきた。
そして今、その“地層”の上に、子どもたちの絵が新たな時間を刻みます。
「存在する」ということの奇跡を感じる構成です。

時間をかけて少しずつ完成していく壁画を見つめながら、
私はあらためて感じました。
——変化することは、なくなることではない。
重なりあうこと。つながること。

病院という場所に、地域の子どもたち、学生、家族、そして私自身に関わり、
互いの存在が重なって一枚の風景をつくっていく。
そのプロセスこそが、このワークショップの本質だったのだと思います。

この絵が、医療空間をやわらかく照らし、
また変化するその時まで、人の心に寄り添い続けることができれば本望です。

Organizer: Kindai University Design & Creative Research Institute
Support: Add Wall Inc.
Compiled & Edited by: Saeko Komiya (Add Wall Collective)
Photography: Julia
Coordination Support: Kindai University Students